

2009年度第2四半期決算説明資料

2009年10月27日

川崎汽船株式会社

アジェンダ

A. 2009年度第2四半期決算概要

- A-1 決算概要
- A-2 業績のポイント
- A-3 部門別業績動向

B. 2009年度業績予想

- B-1 通期業績予想
- B-2 事業別売上高経常利益予想
- B-3 通期業績予想のポイント
- B-4 通期部門別業績予想

C. 収益構造改革の取組み

- C-1 収益構造改革の取組み
- C-2 船隊整備計画見直し

A. 2009年第2四半期決算概要

A-1-1. 決算概要

コンテナ船構造対策費用を除くと、概ね第1四半期公表通りに推移

(単位：億円)

	2009年度					2008年度	
	1Q実績	2Q実績	上期実績	公表	増減額	上期実績	増減額
売上高	1,919	2,085	4,005	4,000	5	7,355	▲ 3,351
営業利益	▲ 221	▲ 204	▲ 425	▲ 410	▲ 15	747	▲ 1,172
経常利益	▲ 227	▲ 272	▲ 499	▲ 440	▲ 59	751	▲ 1,250
当期純利益	▲ 149	▲ 284	▲ 433	▲ 330	▲ 103	512	▲ 944
為替レート	¥97.50	¥94.74	¥96.12	¥96.00	¥0.12	¥105.67	▲¥9.55
燃料油価格	\$304	\$399	\$353	\$349	\$4	\$601	▲\$248

【前年同期比 為替変動：9.55 円高 21億円 / 燃料油価格変動：\$248安 + 230億円】

【コンテナ船構造対策費用：経常損失 52億円 / 特別損失 134億円】

A-1-2. 決算概要 (事業別売上高・経常利益)

(単位：億円)

事業部門		2009年度					2008年度	
		1Q実績	2Q実績	上期実績	公表	増減額	上期実績	増減額
コンテナ船	売上高	862	921	1,783	1,800	▲ 17	3,148	▲ 1,365
	経常損益	▲ 200	▲ 271	▲ 471	▲ 380	▲ 91	▲ 59	▲ 412
その他海運	売上高	861	971	1,832	1,800	32	3,642	▲ 1,810
	経常損益	▲ 42	▲ 4	▲ 46	▲ 70	24	779	▲ 825
その他	売上高	196	193	390	400	▲ 10	565	▲ 175
	経常損益	15	3	19	10	9	31	▲ 12
合計	売上高	1,919	2,085	4,005	4,000	5	7,355	▲ 3,350
	経常損益	▲ 227	▲ 272	▲ 499	▲ 440	▲ 59	751	▲ 1,250

- ・ コンテナ船事業は、構造対策関連費用を計上したことにより第2四半期悪化幅拡大
- ・ 営業利益ベースではほぼ見込みどおり
- ・ 市況は第2四半期にて底打ち

A-2. 業績のポイント

< 公表前提比 >

売上高 見込通り(+5億円)・減益(59億円)

コンテナ船構造対策関連費用を除けばほぼ見込通りに推移

変動要因:

- ・コンテナ船運賃率微減
- ・自動車船積台数減少
- ・バルカー堅調推移
- ・コンテナ船構造対策関連費用 52億円

(08F上期 +751億円 / 公表 440億円 => 09F上期 499億円)

損益変動要因	対前年同期比	対公表前提比
為替変動	▲ 21	▲ 1
バンカー変動	235	▲ 5
市況変動	▲ 1,300	8
営業規模変動	▲ 330	▲ 8
コスト変動	300	9
関係会社	▲ 70	▲ 4
その他	▲ 64	▲ 58
合計	▲ 1,250	▲ 59

< 前年同期比 >

減収(3,350億円)・減益(1,250億円)

変動要因:

- ・世界同時不況による海上荷動き減少
- ・コンテナ船運賃市況下落
- ・不定期船・油槽船市況下落
- ・自動車船 積台数減少

A-3-1. 部門別業績動向

- コンテナ船 -



< 公表前提比/前年同期比 > 減収・減益

売上高	1,783億円	公表前提比	17億円減収	前年同期比	1,365億円減収
経常利益	471億円	公表前提比	91億円減益	前年同期比	412億円減益
総積高	153.9万TEU	公表前提比	1.2%増	前年同期比	10.7%減

< 変動要因 >

公表前提比

- ・積高微増、運賃率微減
- ・構造対策関連費用計上、関係会社等悪化

前年同期比

- ・世界的な荷動き停滞の影響で積高減少
 - アジア出し北米向け荷動き低迷
 - アジア出し 欧州航路荷動き低迷
- ・荷動き減少に合わせてサービス規模縮小
 - 荷動き減少に合わせサービス規模縮小
 - 北欧州向けサービスを一旦休止
- ・荷動き減退につれ船腹需給悪化、運賃大幅下落

運賃率:	前年同期比						
	上期	北米	欧州	大西洋*	アジア	南北	
		往航	32%	44%	33%	26%	43%
		復航	29%	37%	17%	17%	13%

*大西洋往航=西航

A-3-2. 部門別業績動向

- ドライバルク -



< 公表前提比 > 増収・増益

< 前年同期比 > 減収・減益

稼働延ト 103.5 百万ト (前年同期比 3.4%)

< 変動要因 >

・中国の鉄鉱石輸入量の急増に下支えられ、市況は堅調に推移

不定期船傭船市況(スポット)

バルク市況 (太平洋ラウンド)	09年度 上期	08年度 上期	前年同期比		09年度上期 公表前提
			増減額	増減率	
ケープ(170型)	\$43,250	\$140,000	▲ \$96,750	▲ 69%	\$45,500
パナマックス(74型)	\$17,250	\$57,500	▲ \$40,250	▲ 70%	\$19,000
ハンディ(53型)	\$13,750	\$49,000	▲ \$35,250	▲ 72%	\$11,250

BDI 推移 (08F1Q=100)

	08F1Q	08F2Q	08F3Q	08F4Q	09F1Q	09F2Q
Baltic Dry Index	100	73	11	16	27	29

A-3-3. 部門別業績動向

- 自動車船 -

< 公表前提比 > 見込通り

< 前年同期比 > 減収・減益

輸送台数(含む欧州域内): 84.0万台 (前年同期比 52%)

< 変動要因 >

公表前提比

- ・輸送台数ほぼ見込通り
- ・船腹調整によるコスト削減効果

前年同期比

- ・世界的な販売減少による荷動き減

自動車積台数推移(08F1Q=100)

	08F1Q	08F2Q	08F3Q	08F4Q	09F1Q	09F2Q
自動車積台数	100	95	91	53	43	50

A-3-4. 部門別業績動向

- エネルギー資源輸送 -

< 公表前提比 > 見込通り

< 前年同期比 > 減収・減益

公表前提比 LNGは見込通り
原油船、石油製品船ともに市況は公表前提並みに推移

前年同期比 LNG長期契約船は順調に稼動も、市況低迷によりフリー船の収益圧迫
新造VLCC1隻が竣工し当社運航のVLCCは7隻体制、船隊規模は拡大
米国、欧州の減退が大きく、原油、石油製品とも市況が低調に推移

油槽船市況 (WS)	09年度 上期	08年度 上期	前年同期比		09年度 上期公表前提
			増減	増減率	
VLCC (中東/日本)	WS 35	WS 154	▲ WS 119	▲ 77%	WS 34
Aframax (南方/日本)	WS 60	WS 215	▲ WS 155	▲ 72%	WS 60
クワン7万トン型 (中東/日本)	WS 73	WS 260	▲ WS 187	▲ 72%	WS 72

A-3-5. 部門別業績動向

- その他事業部門 -

【重量物船事業】

< 公表前提比：見込通り / 前年同期比：増収増益 >

- ・前年度成約の高運賃貨物の船積み比率が多く、荷況緩和も直接的な影響小
- ・前年度後半から大型船3隻竣工、吊上げ能力を生かして大型貨物獲得

【内航・フェリー】

< 公表前提比：増収増益 / 前年同期比：減収減益 >

内航不定期船部門：国内外需要の低迷から粗鋼生産量の減少が顕著、小型貨物船の輸送量減
鉄鋼・セメントメーカー向け石灰石専用船は概ね順調な稼動

内航定期船部門：製紙メーカー向け紙輸送専用船は安定輸送量を確保

一般雑貨輸送にて東京/苫小牧航路を休止し、常陸那珂航路へ集約・効率化

フェリー部門：八戸/苫小牧航路でトラック・旅客ともに輸送量増加

【物流事業】

< 公表前提比：見込通り / 前年同期比：減収減益 >

- ・中国・アジア発着の航空貨物を中心に回復したものの、海上貨物を含めて全般的な戻りは鈍い

B. 2009年度通期業績予想

B-1. 通期業績予想

(単位:億円)

	2009年度				
	上期実績	下期予想	通期予想	1Q公表	増減額
売上高	4,005	4,095	8,100	8,700	▲ 600
営業利益	▲ 425	▲ 165	▲ 590	▲ 350	▲ 240
経常利益	▲ 499	▲ 211	▲ 710	▲ 420	▲ 290
当期純利益	▲ 433	▲ 357	▲ 790	▲ 310	▲ 480
為替レート	¥96.12	¥90.00	¥93.06	¥96.00	▲¥2.94
燃料油価格	\$353	\$450	\$401	\$375	\$26

2008年度			
上期	下期	通期	増減額
7,355	5,088	12,443	▲ 4,343
747	▲ 31	716	▲ 1,306
751	▲ 151	600	▲ 1,310
512	▲ 188	324	▲ 1,114
¥105.66	¥95.98	¥100.82	▲¥7.76
\$601	\$394	\$504	▲ \$103

【為替変動(下期) : 1円増減 ± 2.0億円】

【燃料油価格変動(下期) : \$10/MT変動 ± 7.0億円】

【コンテナ船構造対策費用 : 上期 186億円 / 下期 314億円(見込) / 合計 500億円(見込)】

B-2. 事業別売上高経常利益予想

上期で底入れ 下期回復

(単位:億円)

事業部門		2009年度				2008年度			2008年度比増減		
		上期	下期	上下増減	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
コンテナ船	売上高	1,783	1,617	▲ 166	3,400	3,148	2,153	5,301	▲ 1,365	▲ 536	▲ 1,901
	経常損益	▲ 471	▲ 269	202	▲ 740	▲ 59	▲ 314	▲ 373	▲ 412	45	▲ 367
その他海運	売上高	1,832	2,028	197	3,860	3,642	2,449	6,091	▲ 1,810	▲ 421	▲ 2,231
	経常損益	▲ 46	82	128	36	779	150	929	▲ 825	▲ 68	▲ 893
その他	売上高	390	450	61	840	565	486	1,052	▲ 175	▲ 36	▲ 212
	経常損益	19	▲ 24	▲ 43	▲ 6	31	13	44	▲ 12	▲ 37	▲ 50
合計	売上高	4,005	4,095	91	8,100	7,355	5,088	12,443	▲ 3,350	▲ 993	▲ 4,343
	経常損益	▲ 499	▲ 211	288	▲ 710	751	▲ 151	600	▲ 1,250	▲ 60	▲ 1,310

- ・ コンテナ船： 構造改革、コスト削減、運賃修復などの効果で大幅改善
- ・ ドライバルク： 市況安定推移で横ばい(市況強含みで改善の可能性も)
- ・ 自動車船： 船隊規模調整完了と荷動き回復で大幅改善
- ・ エネルギー： 市況改善で赤字幅縮小(黒字化の可能性も)

B-3. 通期業績予想のポイント

< 公表比 >

売上高 8,100億円 (減収 600億円)・経常利益 710億円 (減益 290億円)

前提:燃料油価格\$375 \$401、為替¥96 ¥93

< 前期比 >

減収 (4,343億円)・減益 (1,310億円)

前提:燃料油価格\$504 \$401、為替¥101 ¥93

08F通期 600億円、09F1Q公表 420億円 09F通期見込 710億円

損益変動要因	対前年同期比	対公表比
為替変動	▲ 31	▲ 10
バンカー変動	195	▲ 40
市況変動	▲ 1,553	▲ 46
営業規模拡大	▲ 360	▲ 57
コスト増減	565	▲ 46
関係会社	▲ 85	▲ 10
その他	▲ 41	▲ 81
合計	▲ 1,310	▲ 290

B-4-1. 通期部門別業績予想

< コンテナ船 >

公表比 / 前期比 減収・減益

売上高	3,400億円	(公表比	600億円 / 前期比	1,901億円)
経常利益	740億円	(公表比	150億円 / 前期比	367億円)

積高: 301万TEU (前期比 2.9%の減少を見込む)

- ・各社のスペース調整が進み需給関係の緩みは解消傾向
- ・主要航路での運賃修復を予定
- ・運航規模の調整とアライアンス僚社とのサービス合理化によるコスト削減を予定

運賃率: 前期比

通期見込み

	北米	欧州	大西洋*	アジア	南北
往航	29%	25%	25%	17%	22%
復航	24%	22%	19%	17%	13%

*大西洋往航=西航

B-4-2. 通期部門別業績予想

<ドライバルク>

公表比 増収・減益、 前期比 減収・減益

- ・ 中国向けの鉄鋼原料荷動きは堅調に推移
- ・ 日欧の粗鋼生産がピーク時の70～80%まで回復
- ・ 秋口からの穀物輸送需要増

バルク市況 (太平洋ラウンド)	第1四半期 実績	第2四半期 実績	上期 実績	下期 見込	通期 見込
ケープ(170型)	\$46,000	\$40,500	\$43,250	\$40,000	\$41,625
パナマックス(74型)	\$16,000	\$18,500	\$17,250	\$20,000	\$18,625
ハンディ(53型)	\$12,500	\$15,000	\$13,750	\$15,000	\$14,375

<自動車船>

公表比 増収・減益、 前期比 減収・減益

- ・ 荷動きは緩やかに回復基調
- ・ 船腹調整効果も見込まれ、3Qは黒字転換を予想

B-4-3. 通期部門別業績予想

< エネルギー資源輸送 > 公表比 / 前期比 減収・減益

【LNG】

- ・新造船が竣工し規模拡大
- ・短期傭船市況は徐々に回復

【油槽船】

- ・新興国の石油需要は底堅いが、先進国の需要回復には時間がかかる見込み

油槽船市況 (WS)	第1四半期 実績	第2四半期 実績	上期 実績	下期 見込	通期 見込
VLCC (中東/日本)	WS 35	WS 35	WS 35	WS 51	WS 43
Aframax (南方/日本)	WS 60	WS 60	WS 60	WS 68	WS 64
クワン7万ト型 (中東/日本)	WS 63	WS 83	WS 73	WS 88	WS 80

< 重量物船事業 > 公表比 見込通り・減益 前期比 減収・減益

- ・海上荷動きは更に減少
- ・中小型船運航船社を中心とした競争激化によるミドル・ヘビー貨物の運賃率下落

C. 収益構造改革の取組

C-1. 収益構造改革の取り組み

- 収益構造改革委員会を発足(8月19日)
収益改善部会、事業構造改革部会、組織改革部会の3部会を設置、抜本的改革に取り組む。

【収益改善部会】

- ・グループ全体(本体および内外グループ各社)における更なるコスト削減と収益改善
- ・財務・資金対策(投資圧縮、遊休・ノンコア事業資産処分による有利子負債削減)

(コンテナ船) 構造改革費用500億円計上

- ・既発注新造船の竣工時期の後ろ倒し、他船種への変更、傭船期限前解約
- ・売船・傭船返却25隻、解撤1隻、合計26隻の船隊削減実施

(ドライバルク)

- ・高コスト傭船の期限前解約、不経済船の処分、コスト競争力のある船隊整備
- (自動車船)

昨年秋以降16隻の解撤実施、9隻の傭船の返却

C-1-1. 収益改善の取り組み - コスト削減 -



徹底したコスト削減

7月公表 580億円

実施見込み 600億円:20億円の上積み(上期290円、下期310億円実施見込み)

	1Q決算発表時(通年)			上期			下期			最新実施見込み(通年)		
	コンテナ船	不定期専用船	合計	コンテナ	不定期専用船	合計	コンテナ	不定期専用船	合計	コンテナ	不定期専用船	合計
収益改善策	202	141	342	63	81	144	126	62	188	188	143	331
配船合理化(減便、船型/航路見直し等)	195	69	264	60	49	109	114	27	142	174	76	250
傭船料改定・キャンセル他	7	71	78	3	32	35	12	34	46	14	66	80
運航経費削減	110	25	135	71	14	84	51	15	65	121	29	150
船舶経費削減	14	35	48	27	16	42	8	21	29	34	37	71
燃料費削減	8	12	20	4	6	10	4	7	11	8	13	21
一般管理費	18	18	35	5	5	10	9	9	17	14	14	28
収支改善・コスト削減策 合計	350	230	580	169	122	290	197	113	310	365	235	600

一般管理費では聖域なきコスト削減を徹底 (役員報酬のほか、上級管理職の給与カットも含む)

C-1-2. 収益構造改革の取り組み

【事業構造改革部会】

目的は中期経営計画見直しに向けた提言

(今回の経済危機による急激な事業環境悪化を教訓に)

1. 収益ボラタリティ(悪化)に耐性の強い事業構造への改革
2. 投資管理とリスク管理の強化 (規律とルールの厳格化)
3. 何年度から成長路線をどのように描くか(2012年までは事業基盤と財務基盤の強化最優先)

【組織改革部会】

1. 当社の現状の国内外組織体制の問題点も踏まえた当社のあるべき事業組織体制の検討
2. 内外グループ会社の再編・統合、グループ・シナジーの希薄な事業の整理等の検討
3. 海陸・国内外の人事政策の見直し

中長期の観点から聖域なく検討

C-2. 投資計画見直し

< 船隊整備計画 >

(単位: 隻)

船種	2008年度		2009年度		2010年度		2011年度		Vision 100 見込み
	竣工	未船腹	竣工	未船腹	竣工	未船腹	竣工	未船腹	
コンテナ	6	98	11	77	10	81	7	80	132
バルカー	15	166	19	174	17	195	29	220	225
自動車	6	92	9	79	8	85	8	92	106
エネルギー資源輸送	0	0	0	1	3	4	4	8	6
LNG	14	47	1	47	0	44	0	43	48
油槽船	4	30	4	35	0	34	2	37	45
重量物船	3	18	0	14	2	16	0	16	18
その他	2	52	0	57	0	57	0	60	60
計	50	503	44	484	40	516	50	556	640
Vision 100見込み	44	518	48	573	46	608	42	640	

- ・ 2009年～2011年の3ヵ年累計投資CFは、当初計画の1/2に圧縮(5,095億円 → 2,500億円)
- ・ 財務体質の改善も含め、中期経営計画を見直し中。

ご清聴ありがとうございました